

高病原性鳥インフルエンザ発生に備えた危機管理

京都府中丹家畜保健衛生所

八谷純一 上村浩一

【はじめに】高病原性鳥インフルエンザ発生に備えた危機管理として、養鶏農家の予防対策の徹底や発生に備えた防疫演習を実施しているが、さらに 殺処分鶏等の焼却施設での迅速な処理、発生時の風評による消費者の卵、鶏肉離れの回避についても平時から対処しておく必要がある。そこで、焼却訓練を行うとともに、府民への本病の正しい知識の普及に取り組んだ。

【焼却訓練】管内1市の焼却施設の協力を得て、密閉容器に封入した鶏の施設搬入から焼却炉投入までの手順を全家保職員で実際に行い、搬入経路の確認と問題点を洗い出した。また、他市の焼却施設でも同様に処理が行えるかどうかを確認するため、構造を調査した。

【正しい知識の普及】府民の集いを2回開催し、本病が発生しても卵、鶏肉が安全であることや当所及び養鶏農家が取組む予防対策を説明した。アンケート調査では、半数近くの参加者が卵、鶏肉への不安を抱いていたが、安全性の理解が得られた。また、集いの内容を多くの府民に知ってもらうため、新聞等のマスコミ媒体を通じて広報するとともに、府及び当所のホームページに詳細を掲載した。【まとめ】焼却訓練や構造調査により、安全かつ迅速に焼却できる手法を確認できた。また、多くの府民に正しい知識の普及を図るためには、今後も継続した取組が重要と考える。